

しあわせ

1 月 号



あんらくぶつど えししょう
安楽仏土の依正は

ほうぞうがんりき
法蔵願力のなせるなり

てんじょうてんげ
天上天下にたぐひなし

だいしんりき きみしょう
大心力を帰命せよ

『浄土和讃』二七

浄土とその聖衆の尊いすがたは、如来の本願力によって耀いています。だからこそ、天界にも比べる物のないほど美しいのです。如来の願いのはたらきを仰ぎましょう。

(意訳)

「手を合わす母」

新年明けましておめでとうございます。オリンピッククイヤーの幕開け。平和の祭典、オリンピック。今年のオリンピックではマラソン開催地で突然、ごたごたした。でも、雨降って地固まる。次々と新しい選手が誕生し、話題を振りまき、感動を与えてくれるスポーツ界。昨年のラグビーワールドカップ日本大会で日本中が沸いた。東京オリンピックピックも、日本にまたしても感動を与えてくれるに違いない。

人口減少など日本の将来に黄信号がともる中、世界の人々とワンチーム、日本と世界の平和発展を着実なものにしてもらいたい。

世界中に、きしみ音、が響き渡る中、政治家の大きなミスがないことを願うばかりである。

ともかくにも「念仏は無碍の一道」との親鸞さまのお言葉を胸に、どんな障害をも乗り越えて今年一年を力強く果たし抜いてゆきましょう。

法座案内

御正忌報恩講法要

日時 一月 十五日 昼席より
十六日 昼席まで

講師 朝枝 暁範 師

(北広島町 本立寺住職)

法味の会

今月はお休みです

府中町山田二丁目一五十三
栢原山 龍仙寺

電話(〇八三二八)一四八二



【2】和讃をよむ② 浄土をひらく

人の思いがその景色を描いている、ということがあると思うのです。たとえば、わたしは町内の小学校前のゆるやかなカーブを通るとき、なぜか「ふるさと」を感じます。数えきれないほど通ってきた、どこにでもありそうな一本道。川沿いに松がならび、古くなつた歩道橋が向こうに見え、右手にはお宮さん。それらを山がどつしり受けとめている。そんな何気ない景色が、なんとも懐かしいのです。誰もがその道に懐かしさを感じるわけではないでしょう。その景色は、この町で育つたわたしの心をはなれては見えないのでしょうか。

兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川

夢は今もめぐりて 忘れがたきふるさと

多くの人のところを動かしてきた童謡「故郷」。わたしもその一人ですが、わたしは子どもの頃に山で兎を追つたことはありません

し、彼の山がどこかも知りません。小鮒を釣

つたこともありませんが、彼の川がどこにあるかも知りません。しかしこの歌を口ずさむと、先ほどの一本道がありありと脳裏に浮かびます。なぜでしょう。この歌は作曲されて五十年ほど、誰が作詞・作曲したのか、どの風景なのか分からなかったのですが、だからこそ、人はそれぞれの思いを歌詞に重ねられたのであり、重ねられたその思いが、それぞれのふるさとを描いてきたのでしょうか。

ただし、人の心が描くのは、なつかしい故郷だけではありません。生死の苦しみ、愛別離の苦しみ、この世はどこまでも娑婆であり、苦しみを避けることはできません。そして釈尊は、この苦悩の世界を描いているのは、わたし自身の心に他ならないと説かれました。わたしの心こそが、この身を煩わせ、心を悩ましていく。ならば、わたしはこの苦悩の世を、どのように超えていけばよいのでしょうか。

あんらく、ぶつど えししょう
安楽仏土の依正は

ほうぞうがんにき
法蔵願力 のなせるなり：（『浄土和讃』）

浄土とその聖衆は、如来の願いによって荘厳されている。如来の大悲をうけて輝いているからこそ、その美しさは何ものにも比べられず、天上界の美しさを百千万億倍しても浄土の聖衆には及ばないと親鸞さまは和讃されました。煩悩のにごりを超えた浄土とは、如来の願いが照らし出してくださる世界であり、凡夫の心ではけっして描けないのですね。

先日、法衣を着てご法事を待っていたとき、右手の法具を指して長女が尋ねてきました。「とーさん、これなににするもの？せんす？」
「ああ、これは中啓つて言つてね、扇子じゃないんよ。お勤めするとき、お珠数とかお経本とか、大事なものは畳の上にじかに置けないでしょ。だからこれをパツと広げて、この上にお経本とか大事なものを置くんよ」

「ふーん。じゃあ、なつちゃんこの上に座つてもええね！」

「いやいやいや、だめだめ。な、なんで？」
「だつてなつちゃん、大事じゃもん」

子どもは勝手に「わたしは大事です」と名のりはしません。親のよびかけを、聞いてくれているのでしよう。「なつちゃんはね、父さんと母さんの大事なんよ。よく生まれてきてくれたね」と、何度も何度もよびかけてきた、その親の思いを真受けにして、長女はものごとを考えていたのでしょうか。

浄土とその聖衆は、如来の願いによって荘厳されている。真実のいのちの意味は、如来の願いにたまわるものであり、凡夫が勝手にはからうべきものではないと親鸞さまは教えてくださっているのですね。ともにお念仏をいただく、浄土に生まれゆくいのちを歩みましよう。如来大悲の願いが、生きることの意味と方向を、照らし続けてくださいます。